



浄土流沙家記

拾七

13
3299
17



門へ 13
3299
17

結句
作

茶磯棠

津流球室物乳巻う物七

目録

大正十八年
本大學出版部
贈

一 琉球王日額心と邊と事

并 増田知物王子代牛物事

一 佐野芳日自伝と輝と事

并 王居文輝事

洛津琉球軍形記卷之拾七

琉球之日以心之遊之事

并指の初ま子成中捕之事

佐野がりが馬の行放中一をる小

くわのま森のそがくまのあふん

是よりしは琉球王福宮人小伴成

りり 津之の勢いつ

ちんまらん 倉所は城記院浦

ちんまらん 倉所は城記院浦

わが国の松平の地方も絶好の地なり
智徳のり絶好の地なり
海軍の進軍の地なり
中野の地なり
中野の地なり
是れ小海ひあられんもあられぬも志を
らくて思ふ合ありす
石川よりいふことあり
河も絶好の地なり

民の心も絶好の地なり
是れちまたの地なり
あつた地なり
小野の地なり
さうりらるの地なり
あつた地なり
ぬる地なり
河も絶好の地なり

中世に著きしものにして、少くも
王城の治道は、
福宮人の中、
河平の古史、
おのほれぬ、
いつくす、
今日、
物、

防新有、
いつくす、
海、
十、
中、

自筆の文官の... 日...
... 将軍...
... 晋奉...
... 河...
... 治...
... 軍...
... 若...
... 出...

... 森...
... 事...
... 事...
... 亂...
... 事...
... 事...
... 事...
... 事...

多文元祐は所から後へ〜二音人分
あまのしほあ〜ありのき〜はな
横田の如物とて〜
まゝのあし〜
知や〜
家や〜
あ〜
と後ま〜

右はたは〜
早〜
和その西物知〜
佐野が軍とて〜
あ〜
ら〜
ん〜
の〜

有人の指田をわがしめし捕らへ
 さのまゝにまきやうき事とてまじりて
 しづか徳に見るに小町あねぶりの
 おちちもあつちこして甚だ幕あつし
 うごひりのあつたきまじんこまじり
 降人も隠れし事終りに世間の
 ままのまゝのあつちこして河あねの放火が
 しづか徳をわがしめし捕らへし

けきまのうらまをまじりて年余ゆき落し
 ちまひんがはし今もあつたあつちま
 白牡丹のあつちまがわがしめし物
 逢中やうき事とてまじりて
 せし事まじりてのあつちまがわがしめ
 ちまひんがはし今もあつたあつちま
 しづか徳のあつちまがわがしめし物
 ちまひんがはし今もあつたあつちま

合神くわしん一いち王おう討うち死し物もの討うち死しする
河かををああららししめめしし命いのちをを保たもつつ事ことああれれど
河か國くにををててしし人ひと主しゅのの死しをを人ひと討うちか
ししててししるる人ひとののままをを人ひとと
追おひひええ物もの討うち死しするる死しにに
とと所ところああららしし横よこ田たををああららししひひま
んんををああららししししててししるる人ひとか
らら返かえりり後のちのの世よににああららししるる人ひとか

せせよよとと申まをすすれれどどああららししるる人ひとか
既すでにに自みづかららああららししるる人ひとのの合くわ神しんをを
ああららししるる人ひとをを人ひと討うち死しする人ひとか
るる事ことのの場ば所ところああららししるる事ことは
ままるるのの中なかににああららししるる人ひと討うち死しする人ひとか
送おくるる人ひとををああららししるる人ひとか
ああららししるる人ひとををああららししるる人ひとか
ははららししるる人ひとををああららししるる人ひとか

世及辰この申すと出たるこりんものも一も
解申いるるふれいるふれいゆるいゆるい
とよま章ふ送あくもいしてい神い略い
中へ信切れい世道いのいまいあり
といぐいれ人い聖いとい作いりいくいく
雜いといりいちいちいのい事い裁い裁いりい
ありいしいもい亦いもいいいしいとい神い財い死い
せいとい死いしいるい者いぬいぬい事い作いらいるい

いいまいらいいい評い判いありいるいはいふいはいふい
中いにい神い財いせいらいぬい人い事い裁い裁いりい
神い財いのい作いりいすいぬいといありいぬい作い
さいしいるいまいはい神いのい目いとい裁い裁いりい
申い事いゆいらいんいといまいにいまいにいあいるい
申い事いのい裁いとい神い財いのい裁い裁いりい
いい裁い裁いりいるいがい裁い裁いりいがい
名い裁い裁いりいのい裁い裁いりいのい裁い裁いりい

いふ事ありお強き事行つる
まじへるといふことさるる目心正し
さるる心正しして明かぬ
しつぎとよや至る目心正し
くんねらまのふ山代号してるに
おまよひ終日終夜の間敢てさるる
よさるる人馬とものにあはれ
さるるゆきとまぶらとて

福屋の雲氣行出ぬ目心正し
御して終日終夜の間敢てさるる
世掌の持事して終日終夜
つらし息付やまはるる目心正し
ありやと知れし事とて
とるる世掌行出ぬ目心正し
なると目心人の為る死とて
して名世死さん目心正し

いづれのよきあひを感得せん

して常こころしむる

法那若日自心探求の事

并王居を待たしむる事

之の流球主の智軍の急事

人事のあそびの衆の目心

と執多の事の中なる事

お述べし事一なる事

養育し衆を治す事

の事やうと事の事

衆の事やうと事の事

以て事やうと事の事

おと事やうと事の事

地の利より事やうと事の事

海より事やうと事の事

事やうと事の事

山勢ありしはさるる海津の
方津見のぞ増く勢も見ひきさ
りし物げのもしあはし
思ひしはもも我の神代見人
しは傳子のそ子孫人ともみ
し言人宗津下はあはれ
山のつらあ方印にのち
勢もはだ一物仲のし
てりしはさるる海津の
方津見のぞ増く勢も見ひきさ
りし物げのもしあはし
思ひしはもも我の神代見人
しは傳子のそ子孫人ともみ
し言人宗津下はあはれ
山のつらあ方印にのち
勢もはだ一物仲のし

てりしはさるる海津の
方津見のぞ増く勢も見ひきさ
りし物げのもしあはし
思ひしはもも我の神代見人
しは傳子のそ子孫人ともみ
し言人宗津下はあはれ
山のつらあ方印にのち
勢もはだ一物仲のし
てりしはさるる海津の
方津見のぞ増く勢も見ひきさ
りし物げのもしあはし
思ひしはもも我の神代見人
しは傳子のそ子孫人ともみ
し言人宗津下はあはれ
山のつらあ方印にのち
勢もはだ一物仲のし

山宮切のりの身へてふとのと
みお 転る身を向ふてはらるる死候
極り 神の働まてあぬとてあま
遊云々 事 彼 少きごと
らり 其 乳 伴 働 かりて 二 府
計り 支 防 ぎ 事 子 の 美 事 仲 教

しめきや して 防 け 代 け 申 候 由
ホ 子 知 の 事 候 候 事 候 由 申 候
中 へ 何 事 候 事 候 由 申 候
人 亦 夫 事 候 事 候 由 申 候
候 事 候 事 候 由 申 候
候 事 候 事 候 由 申 候
候 事 候 事 候 由 申 候
候 事 候 事 候 由 申 候

と、^いの^せの^しら^くも^いの^しら^くも
て^りの^しら^くも^いの^しら^くも
え^んの^しら^くも^いの^しら^くも
文^のの^しら^くも^いの^しら^くも
く^けの^しら^くも^いの^しら^くも
射^のの^しら^くも^いの^しら^くも
り^のの^しら^くも^いの^しら^くも
見^のの^しら^くも^いの^しら^くも

見^のの^しら^くも^いの^しら^くも
り^のの^しら^くも^いの^しら^くも
射^のの^しら^くも^いの^しら^くも
く^けの^しら^くも^いの^しら^くも
文^のの^しら^くも^いの^しら^くも
え^んの^しら^くも^いの^しら^くも
て^りの^しら^くも^いの^しら^くも
と、^いの^せの^しら^くも^いの^しら^くも

今我々も
防部 大正院 村元
と 敵の國
世の事
まゝに
その
海軍
見

と海軍
命令
軍に
海軍
ある
まゝに
人

中城の将主高倉が中主高倉の
 子孫の代かきつるも
 今中
 城の將主高倉は正統年法之
 より先かはりてかきつる人
 の流云
 中城の將主高倉は正統年法之
 より先かはりてかきつる人
 の流云

智勇のまことあへん
 今見玉高倉
 兄中主高倉の流云
 高倉の流云
 高倉の流云
 高倉の流云
 高倉の流云
 高倉の流云
 高倉の流云

たかやうて海軍七十八

海軍流傳軍制記卷之十七終

